

北海道旭川商業高等学校 現代の国語 年間指導計画(2単位)				A 20時間		B 30時間		C 20時間		計 70時間								
				単 元 名														
				4月 し主張 、自分 に分 の説 得力 を見 や考 たえ を持 たせ る論 の展 開を 考 慮	4・5月 目的 や相 手 に配 慮し なが ら案 内し よう	6月 う理主 。解張 し、論 拠な ど、情 報と 情報 との 関係 を	6・7月 の情 報の 信頼 性や 妥当 性を 吟味 し、 信頼 性	7月 見筆 者 の提 起す る課 題を 理解 し、 自分 の意	8・9月 情報 を的 確に 紹介 しよ う	9・10月 た具 体的 事例 から 一般 論へ の展 開を 意識 し	10月 相手 と目 的に 応じ た報 告文 を書 こう	11月 把握 しよ う。 。論 理の 展開 を捉 え、 要旨 を	11・12月 意見 文を 理解 し、 自分 の経 験か ら意 見を	12・1月 めよ う中 に示 され た死 生観 につ いて 考え を深	1月 する 反論 によ って 自分 の主 張の 正し さを 補強	2月 複数 の文 章を 関連 づけ なが ら理 解し よう	3月 複数 の情 報や 図表 を関 係づ けな がら 内容 を解 釈し よう	
科目の目標 (1) 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 思考力、表現力、判断力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 学びに向かう力・人間性等 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																		
学年		第2学年		担当		松林 豪												
使用教科書				高等学校 現代の国語(第一学習社)														
指導領域				A 話すこと・聞くこと														
授業時数の計				20時間														
指導領域				B 書くこと														
授業時数の計				30時間														
指導領域				C 読むこと														
授業時数の計				20時間														
指 導 事 項																		
知識 及び 技能	(1)	ア	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。			○												
		イ	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。		○													
		ウ	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	○									○					
		エ	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。							○								
		オ	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。			○					○							
		カ	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。										○					
	(2)	ア	主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。					○				○						
		イ	個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。			○				○								
		ウ	推論の仕方を理解し使うこと。											○				
		エ	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。				○											
	(3)	オ	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。					○										
		ア	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。												○			
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・ 聞くこと	ア	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。		○													
		イ	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。		○													
		ウ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。													○		
		エ	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。					○		○								
	B 書くこと	オ	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。									○						
		ア	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。			○					○							
		イ	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。	○										○				
		ウ	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。			○				○	○							
	C 読むこと	エ	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。	○					○				○					
		ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。									○		○		○		
		イ	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。						○						○	○		
教 材 名																		
※各単元の目標について (1) 「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。 (2) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わろうとする。」までを示す。 ※各単元の評価規準の設定について (1) 「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]の指導事項の文末を「～している。」として作成する。 (2) 「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[思考力、判断力、表現力等]の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記し、文末を「～している。」として作成する。 (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)、②自らの学習の調整(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)、③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)、④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようとしている。」として作成する。				『 本 当 の 自 分 』 幻 想 』 平 野 啓 一 郎	(相 手 に 伝 わ る 案 内 を す る)	『 砂 に 埋 も れ た ル ・ コ ル ビ ュ ジ エ 』	(情 報 の 探 索 と 選 択)	『 現 代 の 世 論 操 作 』 林 香 里	(地 域 の 魅 力 を 紹 介 す る)	『 不 均 等 な 時 間 』 内 山 節	(自 校 の 生 徒 の 生 活 実 態 調 査 を す る)	『 文 化 と 』 し て の 科 学 』 池 内 了	(社 会 に 対 す る 意 見 文 を 書 く)	『 城 の 崎 に て 』 志 賀 直 哉	『 動 機 の 語 彙 論 』 と い う 視 点 』 鈴 木 智 之	(法 律 の 改 正 に 関 わ る 文 章 を 読 み 比 べ る)	(日 本 の 労 働 問 題 に 関 わ る 資 料 を 読 み 比 べ る)	